

補 足 資 料

令和8年熊本地震の被災地支援として 熊本県甲佐町へ製水機「AirQua」を無償貸与

2026年8月

株式会社ジェリービーンズグループ

熊本県甲佐町へ製水機「AirQua」を無償貸与

被災された皆さまの生活と地域の復旧にお役立ていただくため、甲佐町役場へ「AirQua」を設置しました。

支援先	熊本県上益城郡甲佐町（甲佐町役場）
支援内容	空気から飲料水を生成する製水機「AirQua」1台の無償貸与
設置日	2026年8月16日
設置場所	甲佐町役場 1階ホール
実施主体	株式会社JBサステナブル（ジェリービーンズグループ 連結子会社）
協力	株式会社Ray of Water（「AirQua」開発元）



甲佐町役場 1階ホールに設置した「AirQua」

令和8年熊本地震による断水と、水の確保という課題

2026年7月28日に発生した令和8年熊本地震では、甲佐町においても断水など生活インフラへの影響が生じました。

JBサステナブルは、「水」に関わる事業を展開する企業として、被災地域の皆さまの生活と地域の復旧に少しでもお役立ていただきたいとの思いから、甲佐町役場へ「AirQua」1台を無償貸与いたしました。

設置にあたっては、開発元である株式会社Ray of Waterの担当者が現地を訪問し、設置作業および使用方法の説明を行いました。

2026.7.28

令和8年熊本地震 発災

2026.8.16

甲佐町役場に設置

AirQua

「AirQua」を無償貸与



甲佐町役場（熊本県上益城郡甲佐町）

2026年8月16日 甲佐町役場にて設置



甲佐町役場

熊本県上益城郡甲佐町



設置場所となった1階ホール

多くの町民の方々が来訪される場所



設置した製水機「AirQua」

電源を接続するだけで運用を開始

設置にあたっては、開発元である株式会社Ray of Waterの担当者が現地を訪問し、設置作業および使用方法の説明を行いました。

熊本県上益城郡甲佐町 町長 甲斐 高士 氏 より

“

ジェリービーンズグループ様におかれましては、今回の製水機「AirQua」のご提供、心から感謝申し上げます。今回の地震で当町も断水世帯が長期化し、水の供給が大きな課題となっております。

貸与いただいた「AirQua」は、被災された多くの町民の方々が来訪される1階ホールに、設置させていただきました。縁もゆかりもない当町への格別のお取り計らい、心から感謝申し上げます。

熊本県上益城郡甲佐町 町長 甲斐 高士

AirQua

水源を必要とせず、空気から飲料水をつくる

「AirQua（エアクア）」は、空気中に含まれる水分を取り込み、冷却・結露させた後、ろ過することで飲料水を生成する製水機です。水源を必要とせず、その場にある空気から水を生成できることを特長としており、日常利用に加え、災害時など水の確保が課題となる場面での活用が期待されています。

JBサステナブルは2025年9月、株式会社Ray of Waterと「AirQua」に関する総販売権を含む包括的業務提携契約を締結しています。



「AirQua」（据置型モデル）

空気から水を作り出す

01

空気から水を作る

水源・給水設備を必要とせず、
その場の空気から生成

02

高性能フィルタリング

不純物 99.9% 除去の
フィルターを通して飲料水に

03

外部から未処理水を取り込み可能

生成に加え、外部の水を
取り込んで処理することも可能

04

タンクの交換や保管が不要

ボトルの配送・保管が不要で
備蓄スペースを取らない

水道・給水インフラに依存しないため、断水時にもその場で飲料水を確保できます。

空気から水を作る仕組み

水分を含む空気が冷却されることで水蒸気が水になる現象（結露）を、電気の力で強制的に行ない水を作ります。

01 吸 気

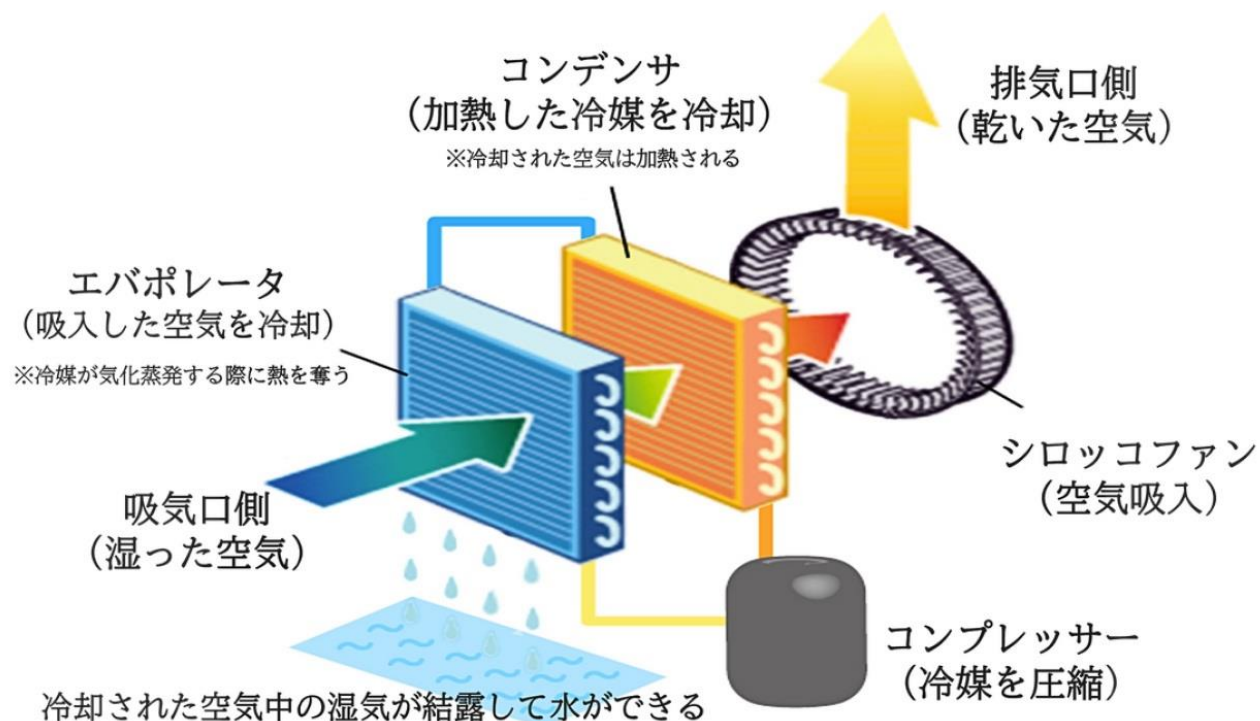
湿った空気を取り込む

02 冷 却

エバポレータで冷却し結露させる

03 ろ 過

フィルターを通して飲料水に



「AirQua」の製水プロセス（概念図）

「発災後の支援」と「平時からの備え」の両面へ

災害時において、生活に欠かすことのできない水をいかに確保するかは重要な課題の一つです。

同時に、災害が発生してから対応するだけでなく、平時から必要な備えを整えておくことも重要です。

災害時

被災地での飲料水の確保

- ・断水が長期化する被災地域での飲料水確保
- ・避難所、役場、公共施設などでの活用
- ・給水車・ボトル配送に依存しない供給

平時

BCP・防災対策としての備え

- ・企業のBCP（事業継続計画）対策
- ・自治体・公共施設における防災備蓄
- ・備蓄スペースを取らない“つくる備え”

一つひとつの地域や利用現場に寄り添いながら、必要とされる場面で技術を役立てていくことを大切にしていまいります。

被災地支援と社会実装のあゆみ

2024.2.5

能登半島地震

石川県志賀町役場へ
「AirQua」2台を寄贈

2024.2.26

能登半島地震

石川県能登町役場へ
「AirQua」2台を寄贈

2025.9

包括的業務提携

株式会社Ray of Waterと
総販売権を含む提携契約を締結

2026.8.16

令和8年熊本地震

熊本県甲佐町役場へ
「AirQua」1台を無償貸与

▲ 本件

2024年の能登半島地震に続き、被災地における飲料水の確保を「AirQua」で支援しています。

今後の取り組み

当社グループは、JBサステナブルを中心に、事業を通じた社会課題の解決に取り組んでいます。
水源に依存せず空気から水を生成する「AirQua」の技術を、日常生活から防災・BCP対策まで、
それぞれの地域や利用環境に応じて役立てていくことも、その取り組みの一つです。

今後も自治体、企業、地域社会、パートナー企業との連携を大切にしながら、「AirQua」の
社会実装を進め、持続可能で災害に強い社会づくりに貢献してまいります。